

# 随泉寺寺報

平成27年（2015年）10月号 第542号

TEL.082-892-0217 <http://www.zuisenji.com>

浄土真宗本願寺派 高峯山随泉寺

## 秋季永代経法要

講師 順覺寺住職 檜崎 一大師

講題 『いずこへ』

### ■ われ、すでに聞くことを得たり

檜崎正道先生に去年の春の永代経に御出講いただきました。すい臓がんの手術を受けられ、元気に回復されてとても大切なご法話でした。尊いご縁でぜひとも来年もお願いしますとお約束を頂き、今年の年賀状には「お世話になりました。お世話になります。」と書いてありました。講題を『いずこへ』と頂きました。楽しみにしておりましたが、今年の2月お浄土にお帰りになりました。

先生が去年の「見真」にお書きになられたものに

『「生きてなほ この世にあるぞ ありがたき いつまでぞとは おのれ知らなく」 「橋一つ 我に掛れり 秋の川」 浄土往生の橋が、阿弥陀さまによって、すでに我にかけられ、一日一日浄土への道である。今生は、いつまでかは分からねど、行き先は阿弥陀さまからすでに聞かせていただいている。重ね重ね ありがたい。』とありました。檜崎一大先生は息子さんです。

### 10月の法座予定

- 10月 2日……………本部役員会
- 10月 11日……………掃除 井原
- 10月 15日朝席午前10時より……………門信徒の集い おとき
- 10月 15日昼席午後1時より……………秋季永代経法要
- 11月 2日午後5時より……………門信徒会本部役員会

10月 カレンダー法語

東井 義雄師

「○は大きく ×は小さく

はげましてもらえば 元気ができるのです」

学期末になって、子どもたちが成績通信簿をもらう頃になると、いつも思い出される作文があります。

小四 女子

「おかあちゃん、ほら、つうしんぼもろてきた」といってわたすと、おかあちゃんほうけとって、だまって見ていられました。ほめてもらえるかと思っているのに、何もいわれません。それで「おかあちゃん、はやくなんとかいうで……」するとおかあちゃんは「たいしたことはない」 わたしは、ほめてもらえるかと思って走って帰ったのに、がっかりしてしまいました。



小五 男子

通信簿をもらってみると「4」が二つもついていた。ぼくは大急ぎで帰った。お父さんは庭先で牛のせなかをかいていた。「お父ちゃん、これみい、通信簿もらったぜ」というと、お父さんは牛のせなかをかきながら「あっちにおいとけ、あとでみる」といった。ぼくはつまらぬので「ふーん」といって家の中へはいつていった。

夕はんのとき、お父さんのおぜんの上においといた。お父さんは見ていたが『なんじゃあ、「3」が四つもあるじゃないか』といった。ぼくは「4」が二つもあるのと思った。

子どもたちは、がんばりを認めてもらいたがっているのです。いいところ、○を見てもらいたがっているのです。でもお父さんもお母さんも、いいところ○はなかなか見えないらしいのです。問題点、×は見えずぎるくらい見えるらしいのですが……。やはり期待過剰ということでしょうか。



そこで、私は、先生方に「子どもに○をつけてやる時には、誰にでもすぐ目につくように、心をこめて、鮮かな大きいのをつけてやってください。×は虫めがねで見なければ見えにくいのでいいのですよ」とおねがいしてきました。そして、親ごさんがたには「○を見てやりましょう。○が見つかったらうんと励ましてやってください」とおねがいしてきました。

小四 男子

おとうさんは、じいっと見ていたが、「うん、まあこれならよかろう。お父さんの四年のときより上とうじや」といってくれました。ぼくはほっとして、これからは、まい日、べんきょうをわすれないようにするぞ、と、けっしんしました。

# ☆浄土真宗本願寺派前門主 大谷光真著「あけぼのすぎ」

—浄土真宗一口法話— 10月

## 「他力の信心を獲得するのはただ法を聞くという道しかない」

### (靈山勝海)

親鸞聖人のみ教えは、信心一つで救われることとか、南無阿弥陀仏のはたらき一つで仏になることであると聞くと、なんだか頼りない、物足りない教えだという印象を抱く方が多いのではないのでしょうか。



蓮如上人は「それ、八万の法蔵をしるといふとも、後世をしらざる人を愚者とす。たとひ一文不知の尼人道なりといふとも、後世をしるを智者とすといへり」とおっしゃっています。

人間の知識や智恵で計り知ることができること（日常生活の方法）を、（自分で考えないで）阿弥陀如来さまに頼って解決しなさいというのであれば、いい加減な教えだ、物足りないと言えませんが、人間は何故生きているのか、阿弥陀如来さまはどんな方かといういのちの根本は、人間の知恵だけでは解決することができません。学問で解決することではありません。

我が身のありのままのすがた、そこにはたらいてくださる阿弥陀如来さまのことは、なによりも、お釈迦様や親鸞聖人の教えを聴聞することによって受け取らせていただくほかないと言えます。

共に、み教えを聞く者として、宗門やお寺を活動的にしていきましょう。



### ☆ 永代経の法要

お経というのは、お釈迦さまがお説き下さったものです。それでは、聞き手はだれかということ、お釈迦さまのお弟子方です。つまり、生きている人に向かって説かれているのです。そうすると、その聞き手に、今生きている私も入ります。逆にいうと、お釈迦さまは、死んだ人には一度もみ教えを説かれていないのです。生きている私に向かって説いて下さったのです。

どう説いて下さったのかといいますと、「どんなことがあっても、あなたを見捨てることなく、必ず救う、阿弥陀如来という仏さまがおられるのですよ。そして、あなたに向かって、南無阿弥陀仏と喚びどおしに喚んで下さっているのですよ。」

そうすると、お経をお供えして、先祖を養うと思っていたのが、実は、私がお経により、養われ、育てられているのです。そして、その御縁を作って下さったのが、御先祖であり、今私がお経に出会ったのと同様に、子孫も出遇えるように、お念仏のおみのりが永代に渡って、伝わるようにと勤められるのが、浄土真宗の浄土真宗の永代経の法要です。



### ☆ ともに歩んだ幸せな日々感謝して・・・

株式会社日本製鋼所にて、実直に働いて家族を支えた穏やかな夫でした。子煩悩で 三人の子が幼いころは毎年旅行に連れて行って行ってくれました。私たち家族は夫を中心に絆を深めていたと 改めて感じています。



後年の夫は 二人の孫の成長を喜びとし、豊かな愛情を注いでいました。生まれたばかりの孫を抱いた時や お宮参りをした際に見せた満面の笑みが胸によみがえります。

夫 和莊は 平成 27 年 3 月 3 日 63 才の生涯を静かにとじました。定年を迎え 残りの人生を楽しもうとした矢先の昨年 8 月より 自宅で酸素療法を余儀なくされた夫。不自由な生活ながら懸命に闘病していました・・・。子や孫たちのこれからを そばで見届けたかったでしょう。惜別の念はつゆのりありますが、お浄土で皆を見守ってほしいと願い 感謝とねぎらいを込めて夫を見送ります。

中下 文枝

中下 和莊 法名 釋和顔 27 年 3 月 3 日往生 63 才

☆ 御礼

永代経懇志 金 拾万円 七竹にしき殿 故七竹則男様 特別永代経志として

永代経懇志 金 五万円 西川 邦子殿 故西川 元様 特別永代経志として

永代経懇志 金 拾万円 古堀 恭子殿 故古堀岩男様 特別永代経志として

永代経懇志 金 貳百万円 観心院釋正護 中本健一殿 遺言にて

☆ 御礼

門信徒会へ 金 一封 西川 邦子殿 故西川 元様 香典返しとして

門信徒会へ 金 一封 下垣チエコ殿 故下垣良一様 香典返しとして